

ジオスペース館だより

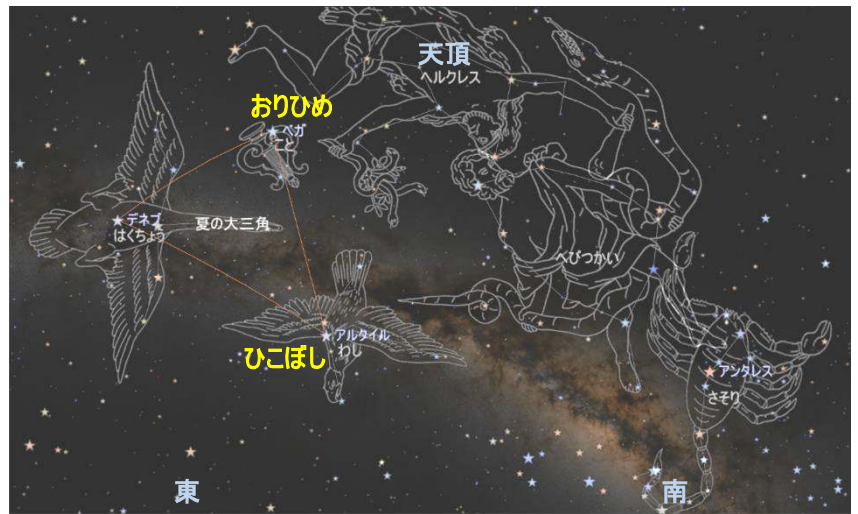
図はステラナビゲーター11を用いて作成

★ 今月の星もよう ★

7月7日は「七夕」。この日は「おりひめ」と「ひこぼし」が1年に1度だけ会えるといわれている日です。梅雨明けは7月上旬との予想なので、空模様が気になります。7月中旬の夜9時頃には、春の星座は西に傾き、南と東の空に、夏の星座を見ることができます。

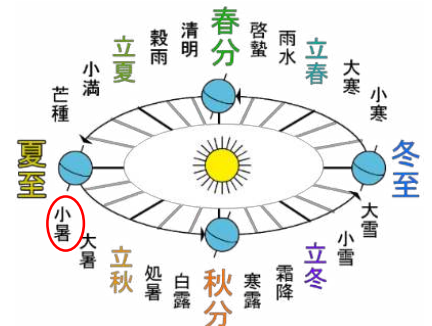
東の高い空には、3つの1等星（「はくちょう座」のデネブ、「こと座」のベガ、「わし座」のアルタイル）を結んだ《夏の三角形》がとても目立ちます。七夕の伝説では、ベガが「おりひめ」、アルタイルが「ひこぼし」とされており、この二つの星の間を隔てるように天の川が横たわっていることから、引き離された二人が1年に1度だけ会えるという物語が生まれたのだそうです。

また、南の空には、「ヘルクレス座」「へびつかい座」「さそり座」が並んで見えます。「さそり座」の心臓に輝く1等星アンタレスは、その真っ赤な色から、日本では「赤星」や「酒酔い星」とも呼ばれます。アンタレスは《赤色超巨星》に分類されており、やがて超新星爆発を起こし、吹き飛んで星としての一生を終える運命にあります。そんな運命を想いながら、南の低い空の「さそり座」を探してはいかがでしょうか。



★ 二十四節気・7月7日は《小暑》

1年を24等分し、季節を表す二十四節気。7月上旬の節気は《小暑》と呼ばれ、毎年7月7日頃になります。《小暑》とは、夏本番の手前の頃のことで、江戸時代に書かれた暦便覧には、「次の節気《大暑》が来る前の時期だから（《小暑》という）」と記されています。まもなく小暑。梅雨明けが近づき、暑さがだんだん強まってきますので、熱中症にはくれぐれもお気をつけください。



二十四節気と、太陽と地球の位置関係

★ 夕方の西の低空で金星と火星が接近！

夕方、日の入りからしばらくすると、西の低い空に金星が見え始めます。火星も、肉眼でははっきり見えないかもしれませんが見えていて、7月12日から14日にかけて、金星と火星が接近します。金星はとても明るく輝いていますが、火星はだいぶ暗めなので、双眼鏡や小さな望遠鏡を使うのがおすすめです。12日には、金星と火星に細い月も近づくので、ぜひ、2つの惑星と寄り添う月の眺めを楽しんでください。



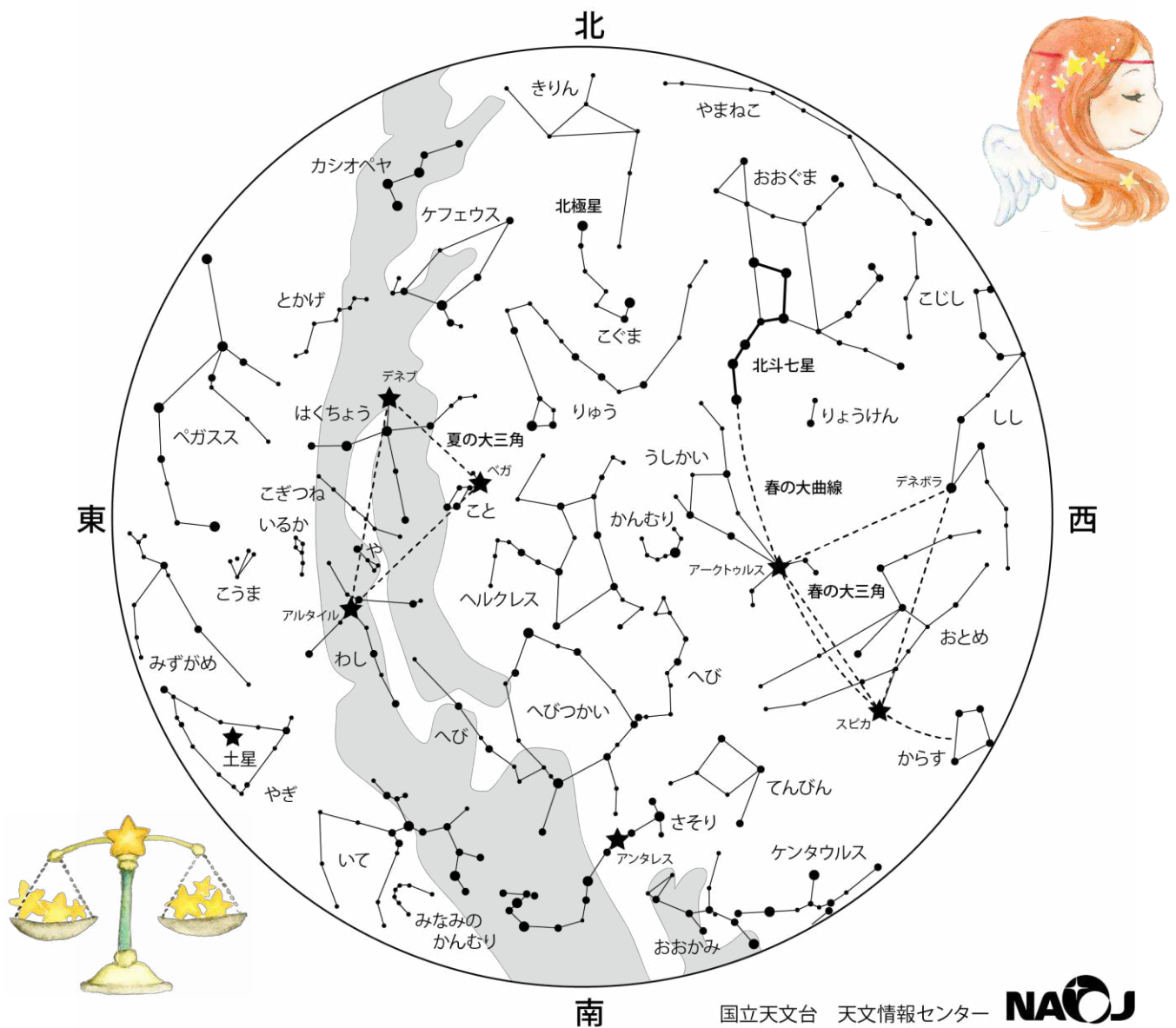
※画像の月は大きさを強調しています

★ 7月のプラネタリウムの内容につきましては、別刷りの「投影案内」をご覧ください ★

★ プラネタリウムのお休み 7/5(月)、12(月)、16(金)、19(月)～21(水)、26(月)

★ 新型コロナウイルス感染症対策で、入場定員を減らして投影しています。

7月上旬午後9時30分頃の星空



国立天文台 天文情報センター **NAOJ**

★ 7月上旬の主な天文現象

2日(金)	☾ かげん 下弦	8日(木)	☾ すいせい 細い月と水星が接近
3日(土)	金星とプレセペ星団が接近	10日(土)	● しんげつ 新月
7日(水)	小暑 たなばた 七夕	12日(月)	☾ かせい 細い月と金星、火星が接近

★ 宇宙ステーション(豊川での主なデータ 7/1~15) ※ 下記時刻は、予想値です

◇ 7月13日(火)	[見やすさ ◎]	20:32	南西	~	20:38	北東
◇ 7月14日(水)	[見やすさ ◎]	19:45	南南西	~	19:51	東北東
◇ 7月15日(木)	[見やすさ ◎]	3:53	北西	~	4:00	南東
◇ 7月15日(木)	[見やすさ ◎]	20:34	西南西	~	20:40	北北東

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。
飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。